

山行報告 御神楽岳 1386.5m

2019年6月2日 秋葉信夫、渡辺敏夫



石城山岳会に入会して間もない頃だから 30 年位前のことだが、御神楽岳の山伏尾根から湯沢ノ頭まで登ったことがある。その時の下りの長かったこと。NHK の「200 名山一筆書き」で田中陽希が蝉ヶ平コースを登るのを見て、もう一度行きたいと思った。

長丁場なので御神楽温泉あすなろ荘の手前の道路脇にテントで前泊する。

湯沢出合いまでは所々崩壊し危なかしい所もあるが、ほぼ水平の山道を歩く。

湯沢出合から林の中の登りやトラバースになる。

ピンクテープが付けてあるが落ち葉や藪気味で分かり難い所もある。

尾根に出ると急峻な岩壁の展望が広がる。ここからは急な岩場の連続、ロープや鎖、灌木に掴まっての攀じ登り、今シーズン最初の暑い中での登山で遅々とはかどらないが、清楚なヒメサユリの花が慰めてくれる。



やっとの思いで高頭に着く。頻りに水を飲むが食欲が湧かない。湯沢ノ頭までも長く感じる。水が間に合うかなと心配になる。頂上付近に見える雪渓で水が取れるのを期待する。

一旦下がり、喘ぎながら登り室谷コーストの分岐に着く。ちょっと下の登山道から下される雪渓があり、雪をペットボ



トルに詰める。これで助かった。

おりしも当日は本名御神楽岳の山開き、頂上は多くの登山者で、写真も撮ることができない。

頂上からは浅草岳、守門岳、飯豊、五頭山、二王子岳、秘境中の秘境の五剣谷、青里岳、矢筈岳も望める。会津朝日など会越国境の山々が一望できた。登って来た尾根を振り返る、あそこを下るのかと思うとウンザリする。

さすがに「東北の谷川岳」と言われるだけあって、

簡単には登らせてくれなかった。久しぶりのヨレヨレ山行でした。

登り：駐車場 5：45→鉢山跡 6：05→湯沢出合 6：50～7：00→高頭 9：00～10→湯沢ノ頭 10：10～20→分岐 11：20～30→頂上 11：45～55

下り：頂上 11：55→分岐 12：15→湯沢ノ頭 13：00

～10→高頭 13：55～14：05→湯沢出合→15：35→鉢山跡 16：25→駐車場 16：40

(文責：秋葉)



『ヘッポコの双六岳～笠ヶ岳へ縦走記』

菅野靖司

残雪期最後の山行を槍ヶ岳、穂高岳を見に入山しました。

5月24日(金) 新穂高温泉 5：00⇒わさび平小屋 6：30⇒弓折岳 11：30⇒

双六岳避難小屋 14：00⇒双六岳 16：00⇒双六避難小屋

晴天の空を確認し新穂高温泉駐車場を出発！左俣林道は雪もなく気持ちの良い森林浴。

中崎橋は「少し傾き自己責任で通過ください。」との注意書きがありました。奥丸山登山口の分岐、小池新道から雪渓です。カールだがデブリは無く落石への注意をしながら登りました。シシウドヶ原辺りでルートを弓折岳に向かいほぼ直登する事にしました。ここからの300mは急斜面で一気に登りました。気温20度の暑い中、アイゼンをしっかりと蹴り込み弓折岳東尾根に到着！雪をまとった槍ヶ岳から穂高に続く3000mの峰々が壁を作り右には新緑の上に見える乗鞍岳。見事なアルプス屏風絵を堪能する事が出来ました。ここで食べた昼食は最高に美味かった！！双六岳小屋までは夏道と雪道を踏み抜きに注意しながらの歩行でした。避難小屋に荷物をデポし、いざ双六岳へ出発。稜線までは雪渓でしたが稜線上には雪もなく夏道を快適に歩けました。目の前に見える三俣蓮華、雲の平の峰々が頑張った自分に話しかけて来る様でした。『雪の時にまた行くからね！』と、別れを告げ小屋に戻りました。夜も快晴で鷲羽岳を見ながら満天の星空を楽しみました。

5月25日(土) 双六小屋 6：00⇒弓折岳 8：00⇒大マノ岳 9：00⇒秩父平 11：00⇒

抜戸岳 13：00⇒笠ヶ岳避難小屋 14：30⇒笠ヶ岳 15：30⇒笠ヶ岳避難小屋 16：30

御来光を見たので出発が多少遅れ、雪の踏み抜きと戦いながら見えない夏道を探しながらの歩行となりました。秩父平から秩父岩までのカール越えをどうするか？悩みに悩みましたが、デブリも無い事からカールを横断する事にしました。傾斜角40度付近の雪崩の起き易い地形を疲れた体で一気に登る事が出来ずハラハラしどうしてでした。このカール越えは

褒められないルートだった。と反省！笠ヶ岳避難小屋に荷物をデポし笠ヶ岳へ。槍ヶ岳から始まる北アルプス、白山のパノラマは雄大で、百名山の絶景“を堪能できました。

夜、タイムラプス動画を取りに再び笠ヶ岳へ、満天の星空を一人占め“心ゆくまで楽しめました。「えがったぞい！」

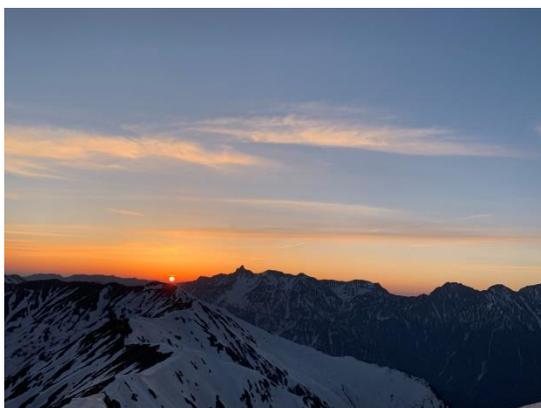
5月26日（日） 笠ヶ岳避難小屋 5：00⇒抜戸岳 7：00⇒杓子平 8：40⇒

笠新道登山口 12：00⇒新穂高温泉 13：00

笠ヶ岳から御来光を観て、避難小屋で雷鳥夫婦のお見送りを受け、笠ヶ岳を後にしました。秩父のカールを安全に通過する為と杓子の下り時に雪庇崩れを回避する為少し早立ちしました。笠新道の夏道にたどり着かないとヤブこぎになってしまうので、GPS と地図をこまめにチェックしながらの下山です。途中道探しもありましたが、引き返したトレースを見つける事ができラッキーでした。

この時期、入残者は少なく毎日 1, 2 名の登山者に会っただけです。避難小屋は貸切り状態でした。双六小屋の避難小屋は内トイレがある素晴らしい小屋でした。

槍ヶ岳、穂高、乗鞍の壁絶景をまた堪能したいと思える山行でした。



八十里越

5月28日（火） 渡辺敏夫

八十里越は、明治時代後期まで会津只見と新潟をを結ぶ重要な街道であった。現在は、鉄道の只見線や国道 525 号の六十里越が整備されて、簡単に只見から新潟に越えられるようになった。さらに、八十里越街道と並行するように、只見の叶津から新潟の三条市まで国道 289 号の整備が進められて、2023 年とか 2025 年までに開通するといわれている。現在すでに工事車両は、福島と新潟を往復できるようで主要な工事は終了しているようである。このような八十里越“古道”をかねて行ってみたいと思っていた。目的地の吉ヶ平（よしがひら）に車を置いて、入叶津から片道を歩ければと思っていたが、一人で行くことにしたので、吉ヶ平までの往復を行ってみることにした。入叶津から吉ヶ平までは、おおよそ 30km あるので 9 時間から 10 時間かかると思われる。往復 20 時間を見れば何とか往復できるのではないかと、夜中の 1 時前に出発して夜の 9 時か 10 時には戻ってこれると予想して出発した。歩きながら昔の人が通った息遣いを感じながら進んだ。しかし、夜明け前の暗がりでは、道が分



木ノ根峠手前の 822m 地点

かりづらいところがあり、また雪崩で道が削られ歩きづらいところがあり、沢や谷が雪で覆われ横断はアイゼンもピッケルもないので慎重に進まざるを得ず、思った以上に時間がかかった。鞍掛峠（965m）を超えて新潟側に入ると、北斜面のために沢筋だけの雪面どころか、斜面全体が一面の雪面でした。夕方までには吉ヶ平まで着けるが、戻るのがさらに遅くなり今日中に戻れないと判断、ここまでとして引き返すことにした。

これだけの雪の想定はなく、しかし、まだまだいたるところに多く残ってました。雪がない地面はドロドロで長靴でないと歩けない。しかし、雪面で長靴ではキックステップがあまりきかないのでゆっくりしか歩けない。今回歩いたのは片道 16～17km 程度で、やはりこの時期は歩くのに時間がかかり往復は無理なようでした。今度は吉ヶ平から鞍掛峠まで行って、八十里越を完成させたいと思っています。



鞍掛峠の石碑

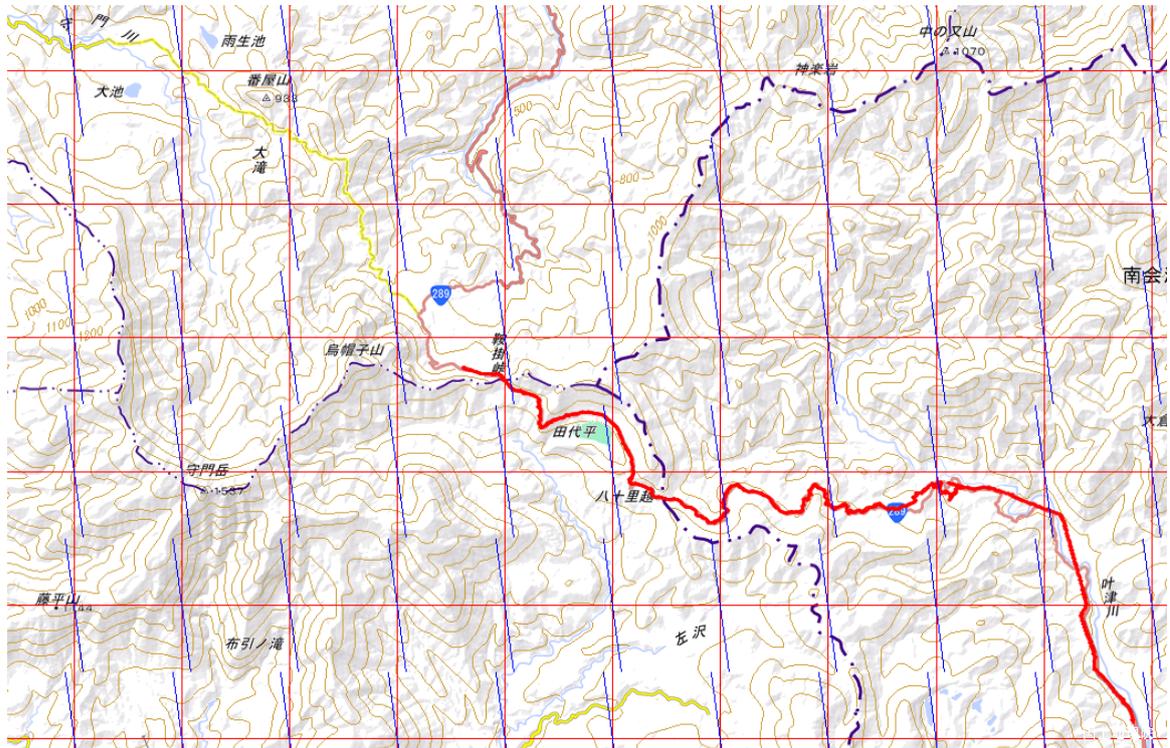


鞍掛峠を超えると一面の雪面

コースタイム

浅草岳登山口駐車場 0:48→289号道路分岐
 1:52→八十里峠(木ノ根峠) 5:42→林道分岐
 6:14→鞍掛峠 7:39→最終到達点 8:30→
 鞍掛峠 9:20→林道分岐 11:26→八十里峠
 (木ノ根峠) →289号道路分岐 15:51→登
 山口 17:02

文責：渡辺敏夫



要害山 (705m)

5月29日(水) 渡辺敏夫



只見駅脇から望む要害山



登山途中から望む柴倉山と蒲牛岳

前日の八十里越の疲れが残っているようで、少し足に痛みが感じられる。今日は只見駅裏にそびえる要害山に登る。山頂にはテレビ塔がみえる。片道登り1時間程度の里山です。山域のいたるところに戦国時代の水久保城跡の遺跡があるそうで、低山ながら展望のよい山です。宮ノ沢登山口からのぼることにし、只見駅から踏切を渡りその先の滝神社の鳥居をくぐり本殿脇にある道標に従って、登ってゆく。尾根筋の525mの標高点までは、結構急な登りである。そこを過ぎると緩やかな尾根歩きになり、時々急な斜面も現れるが、ほどなく要害山の山頂に到着する。山頂にはテレビの電波塔や電源設備の建物がある。南側は見晴らしがきき、浅草岳、蒲生岳、只見を取り巻く山々、それに只見の町が見下ろせる。今日は雲が多くあまり遠くの山々までは見渡せない。下山は只見スキー場と三石神社の間を通る南尾根へと進み、途中に三石神社内にある縁結びの三石清水(三石公園)を通過して只見駅へと戻った。

コースタイム

只見駅駐車場 7:54 → 要害山山頂 8:46 9:06 → 只見駅駐車場 9:56

文責：渡辺敏夫



大中子山（おおなごやま）（1843.6m）

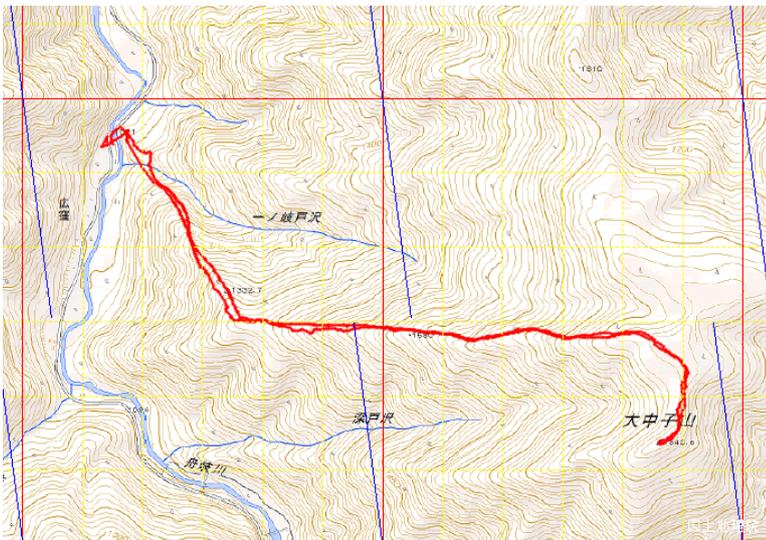
5月30日（水） 渡辺敏夫



山頂手前の針葉樹林帯



大中子山山頂にて



大中子山は会津百名山の中の登山道のない山の一つで、登るのは残雪期の方がよいのですが、なかなかチャンスがなく残雪期に登れないでいたので、今の時期ならそれほどやぶも濃くなくなんとか登れるだろうと思い、行くことにした。前日に、只見から桧枝岐に移動して、ミニ尾瀬公園の駐車場に車中泊し、5時過ぎに登山口を出発した。登山口は舟岐川林道の最初に右岸から左岸に渡る牛首橋の手前の左側の斜面を登っていく。このルートのポイントは、登りだして間もなく一ノ岐戸沢の流れを横切らなくてはならず、もし水量が多いと石伝いに飛び越せない場合があるので、靴を脱ぐか長靴が必要になる。前日下見をして、飛び石伝いに渡渉ができそうなことを確認していた。進むルートにマーキングがあるようなので、進路は心配がなさそうである。1380mの尾根筋まで結構急な登りが続く。そこから幾分斜面は緩くなるが、今度は結構手ごわい笹藪が時々現れる。笹は雪の重みで低いほうに倒れているの

で、登りの場合はまともに正面に枝が向かってくるので、顔や耳など露出している部分には危険である。尾根に沿って登ってゆくと次第に斜面が緩やかになり針葉樹の樹林帯に代わると、雪面が現れて藪が雪の下に隠れて快適に歩くことができるようになった。進路を右にとって稜線を進んでゆくと、日当たりがよく雪がなくなる。そうするとまた笹藪である。山頂付近で標識をしばらく笹藪の中を探していると、ようやく三角点と山頂標識を見つけるこ

とができた。下山は登りに比べて笹藪の通過は楽だが、尾根筋がはっきりせずマーキングが見つからない時がある。その場合は、しばらく下ると目的の尾根筋を確認できるので試行錯誤を繰り返して、下山ルートを確認しながら進む。登り4時間、下り2時間30分、満足のいく登山道のない山でした。

コースタイム

登山口 5:18→尾根取り付き 6:47→頂上台地取り付き 8:58→山頂 9:24 10:18→頂上台地取り付き 10:41→尾根取り付き 11:49→登山口 12:51

文責：渡辺敏夫

蔵王山

標高1841m 6月16日

参加者登山教室 13名 会員 7名

前日から気象庁の発表は、低気圧の影響で、東北大雨の恐れと心配される中、今回ばかりは、「予報、外れてー」と願いながら、いわきを出発。目的地に近づく頃、バスの中で山岳会から安全登山を最優先にしてのコース変更の案……「ロープウェイに乗りますか」の問いかけに「はいっ」と喜んで、手を上げて、しまった私達【3人】でしたが、「これまで晴天に恵まれ、着る機会のなかつた、カッパを着て行ける所まで行きましょう。」となる。皆さん、カラフルなレインウェアが似合ってます。準備を整えて蔵王温泉をスタート。目の前には、まっ白な絨毯がグレンデー面敷かれてるかのよう、マーガレットの花が出迎えてくれた。



偶然にも、カモシカ……どうぞ、私を撮って下さい。」と言わんばかりにカメラ目線で大勢のカメラマンにサービスしてくれた。ゆっくりと散策しながら、振り返ると麓は晴れているように見える。霧雨の森のなかで「これ以上進んでも景色も望めないでしょう。」と現場で臨機応変の対応で、下山開始となり、約3時間の歩きとなる。下りは足下の花に誘われるように全員モデルさん。素敵な写真がたくさん撮れました。心配していたどしゃ降りにもあわず、小雨の中を歩き、温泉でのんびり。お目当てのジンスカンが終了で残念でしたが、店内の美味しそうな匂いを五感で堪能しながら、ご当地グルメの冷たいラーメン、肉そば……カツ丼を完食。幸せなひと時を楽しむことができました。お腹も心も大満足です。

この悪天候の中、無理をして、遭難していたら大変なことになっていました。山岳会の皆様の迅速な判断と粋な計らいのおかげで、今までにない山行となり、全員無事に帰って来ることができました。ありがとうございました。

蛭田ミチ

かつては「わすれずの山」として広く知られていたが、火を吹く山、火の山として恐れられ大和の国吉野にあった蔵王権現を祭って以来「蔵王山」と称するようになった。」とのこと。

今回は、前日の天気予報で北陸と北日本で大雨や暴風に警戒が必要との予報で、明日の登山はどうなるのだろうと少しドキドキしながら、眠りにつきました。これまでの山行とは違い、私の経験上、長時間の登山予定に加え悪天候、無事にけがもなく、皆さんについて行けるだろうかと心配になり始めた頃、蔵王山近くに着きました。今回は、異例の安全を優先してのコース変更。山岳会メンバー多数決で、ロープウェイを利用して登山したい人と聞かれ、手を上げた人数が3名だったことは、ビックリでした。山岳のエキスパートの人達が多数いるので、絶対登山すると思っていました。予定変更で「行ける所まで行く。」と発表があり「すごい警報が出ているので、



仕方がない。」と思いました。近年の山岳遭難発生件数【2017年2583件】遭難者数【2017年3111人】原因別遭難者比率の40%が道迷いだと講習会で、学習したばかりだったので納得できる判断でした。安全を優先してのコース変更、目標達成できずに残念に思う反面、引き返す勇気と決断が次の登山につなげるために必要なことだと思いました。

ゴアテックスのレインウェアと登山用スパッツ【ゲイター】を初試着し、スパッツの前と後ろもわからず、先輩に聞きながら、無事準備終了。小雨の中、マーガレットが一面、ゲレンデをうめつくしている、急勾配の坂を皆で登りました。途中滅多に見ないカモシカに遭遇、その他、マタタビの葉が白いのは、虫を呼ぶためのもので、後には他の色に変わることなど学習しました。その他、タニウツギ、マイヅルソウ、ハクサンチドリ、などの綺麗な花々を見たりすることが、出来ました。濃霧で視界が悪くなり考えていた時間よりかなり早く下山することになりました。下山後、皆さんと蔵王温泉に入り、食事をし、

楽しく過ごすことが出来ました。登山者数名の意見を優先することなく、リーダーの判断と決定の難しさ、登山者全員の安全と命を守る大切さを痛感することが出来ました。皆様と貴重な時間を過ごし、多くのことを学ぶことができたことに、感謝致します。

佐藤幸子



- 5:00 ⇒いわき合同庁舎出発
- 8:30 ⇒蔵王中央ロープウェイ温泉駅出発
- 11:30 ⇒蔵王中央ロープウェイ温泉駅下山

松金屋アネックスで食事
松金屋アネックスで入浴

- 15:00 ⇒松金屋アネックス出発
- 17:40 ⇒いわき合同庁舎着

『ヘッポコの聖岳山行報告 令和の初御来光！』

菅野靖司

令和初の御来光を大きな富士山を見ながら迎える為、北アルプスから南アルプスへ移動！光岳から聖岳縦走で迎える予定でしたが、雨の回復を長野観光しながら待ち5月1日（水）～4日（土）で聖岳ピストン山行しました。

5月1日（水）

連休駐車スペースが心配なので、芝沢ゲート駐車場にて車中泊。車は少なく20台位でした。

5月2日（木）

5時 芝沢ゲート⇒7時 聖光小屋⇒8時 西沢渡⇒12時 薊畑⇒13時 聖平小屋

芝沢ゲートを入ると直ぐに車道が崩落。急造された細い迂回路を500mほど歩き車道に戻りました。

易老渡を過ぎ聖光小屋（休業中）で給水休憩の予定でしたが、水が汲めず。

もみじ橋？の川原で給水となりました。名所？西沢渡しの手こぎゴンドラで一汗かき前進。

標高2000m辺りから雪道となりザクザクの雪と急登に格闘しながら薊畑に到着。昨日、雨天の中を登り、聖岳から下山した若者団体に出会い御来光を見ていない事を確認！『しめしめ(๑≧▽≦)てへぺろ』雪をまとった茶臼岳、光岳が出迎えてくれました。聖平避難小屋は30人ほど泊まれる大きな小屋で夏トイレの一部が冬季も使用出来ました。利用者は15人程度でゆったりと宿泊出来て良かったです。

5月3日（金）

1時 聖平小屋⇒2時 薊畑⇒5時 聖岳⇒7時半 薊畑⇒9時 聖平小屋

今日御来光を拝めば『令和最初の御来光』深夜に一人小屋を後にした。雪は締まり歩きやすかった。

トレース後は有るもののどうもルートファインディングがよろしくないなので、地図GPSで確認しながらルートを取り森林限界を越え2662m小聖岳に到着。まだまだ雪も多く夏道は雪の下です。雪崩の後には無いものの、滑落すれば止められないかも？時計を気にしながら登り頂上到着。『令和最初の御来光』を一人堪能し、写真に収めました。富士と御来光いつ見てもえになる～～！ヘルメットを忘れた同伴者に小聖岳でヘルメットを渡し小屋まで下山

5月4日（土）

5時 聖平小屋⇒6時 薊畑⇒9時 西沢渡⇒10時 聖光小屋⇒11時半 芝沢ゲート

少しでも歩き易い様に早めの小屋立ちをしましたが、柔らかい雪に苦戦しながら何度かワカンを付けたり外したりしながら無事下山。

飯田市で汗を流し、お寿司で下山を祝いました。信州ワインと吟醸酒『聖岳』を買い帰路に着きました。『令和初御来光！聖岳は、俺が撮ったぞ～～！！』



山行報告 滝沢溪谷、雄滝・雌滝 622m

2019年6月6日 秋葉、下山田、他1名

滝沢川は会津金山町にあり、一等三角点の貉ヶ森山を源とし甌穴が見られることで有名な川です。

金山町滝名子から林道終点まで車で入る。登山道を進むと幽の沢分岐には洞窟がある神様が祀ってある。周りにはオドリコソウ（踊子草）咲き誇っている。

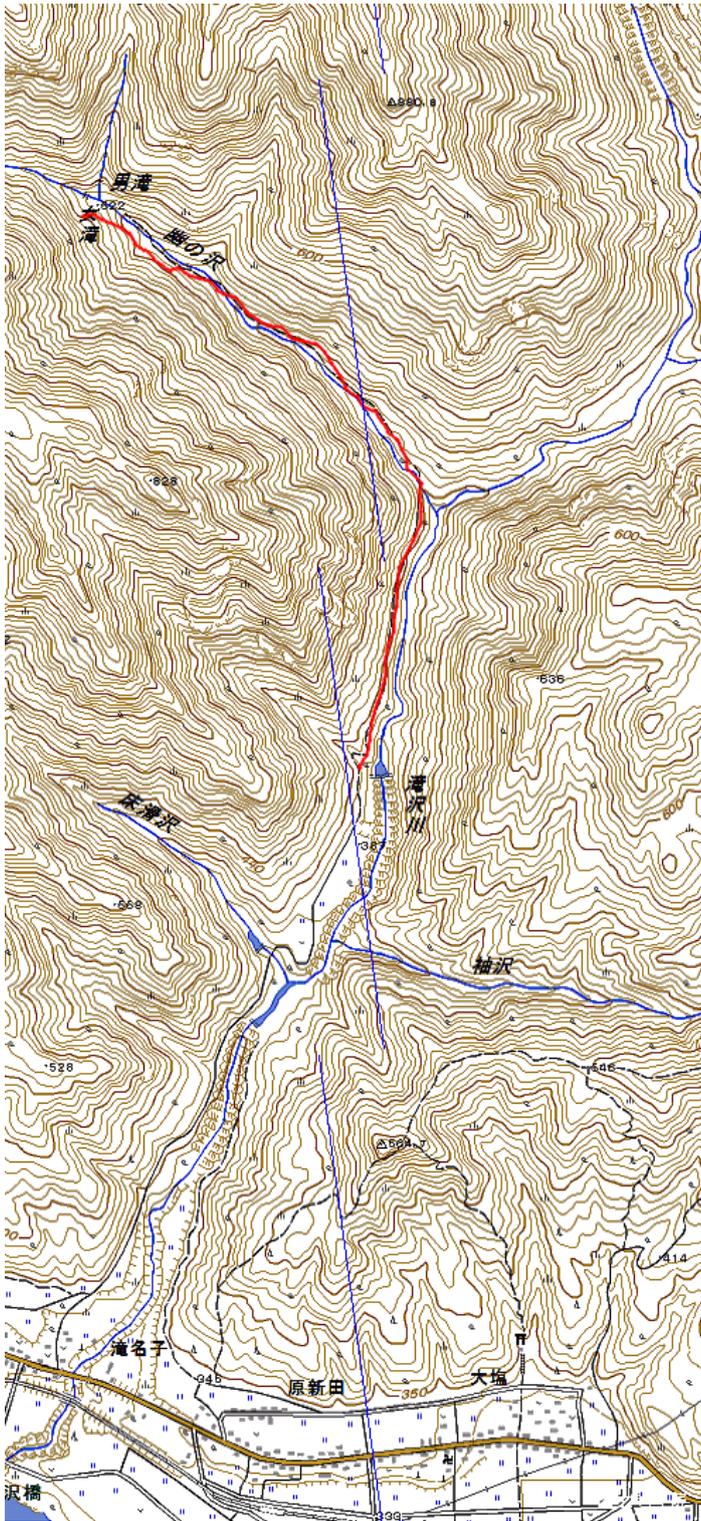
何度か徒渉しながら進む。所々に出てくる滑床と甌穴がきれいだ。左に急斜面を60mくらい登ると展望台があり雄滝・雌滝を望むことができる。見事！

登り：林道終点 8：

50→沢分岐 9：15→展望台 10：20

下り：展望台 10：30→林道終点 12：00





(文責：秋葉)

山行報告 木地夜鷹山969m

2019年5月30日

秋葉、下山田、尾形、志尾崎、柏村、栗崎、容子、他3名

木地夜鷹山は西会津町の大山祇神社のある台倉山から稜線続き、地形図にも山名が載っていない。魅力的な名前の隠れた人気の山です。登山道がない山とされているが、ふみ跡をたどっていける。



西会津町の400号線「落合集落」から長谷川に沿って行き、最後の「大滝集落」過ぎると林道になり終点まで行く。

登山道は長谷川を何回か徒渉し大山祇神社方面からの黒沢越えの路の分局になるがこちらはが藪に覆われている。

長谷川から離れ百戸沼への道に入るが、見落としてしま

い、ロープを張って急斜面を登り路に復帰。今では見る影もないが百戸沼には鉱山があり、百戸の住居があったことから名付けられた。

百戸沼からは踏み跡程度になり気をつけないと路を見失う。急なブナ林を登り、また緩やかに最後急登すれば頂上。



タニウツギやツクバネ

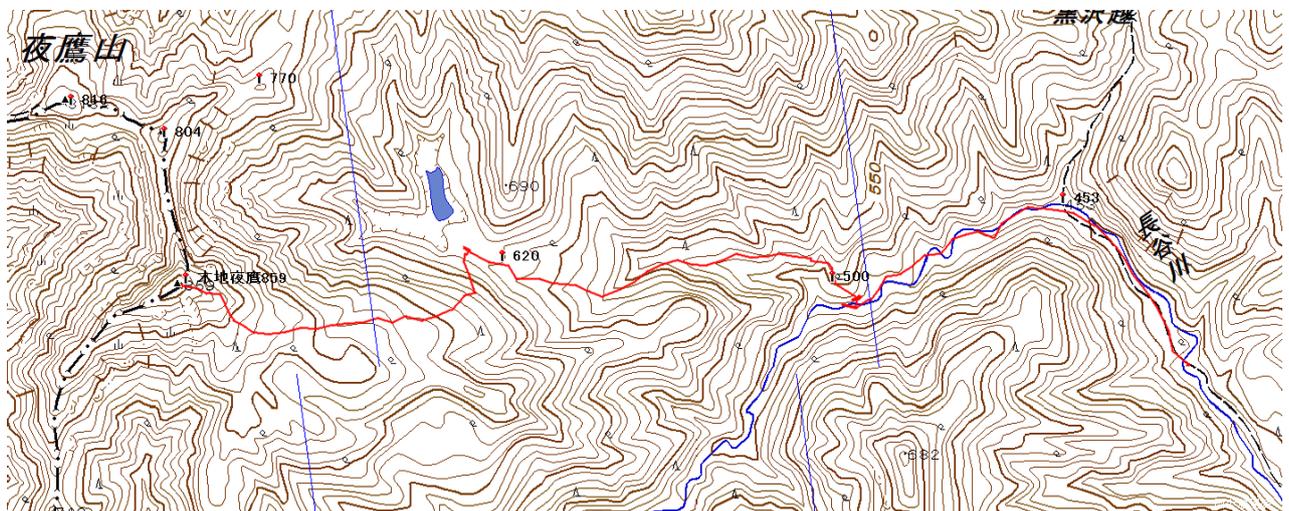
ウツギが咲き、ヒメサユリは咲き始め。飯豊や豪雪地帯特有の岩壁を持った会津の山々を展望できました

次回はもう少し早い時期に、黒男山～二王杉～高陽山～木地夜鷹山と周回してみたいと思いました。

登り： 駐車地 8:15→黒沢分岐 8:30→百戸沼 10:00→木地夜鷹山 11:00

下り： 頂上 11:20→百戸沼 12:00→駐車地 13:00

(文責：秋葉)

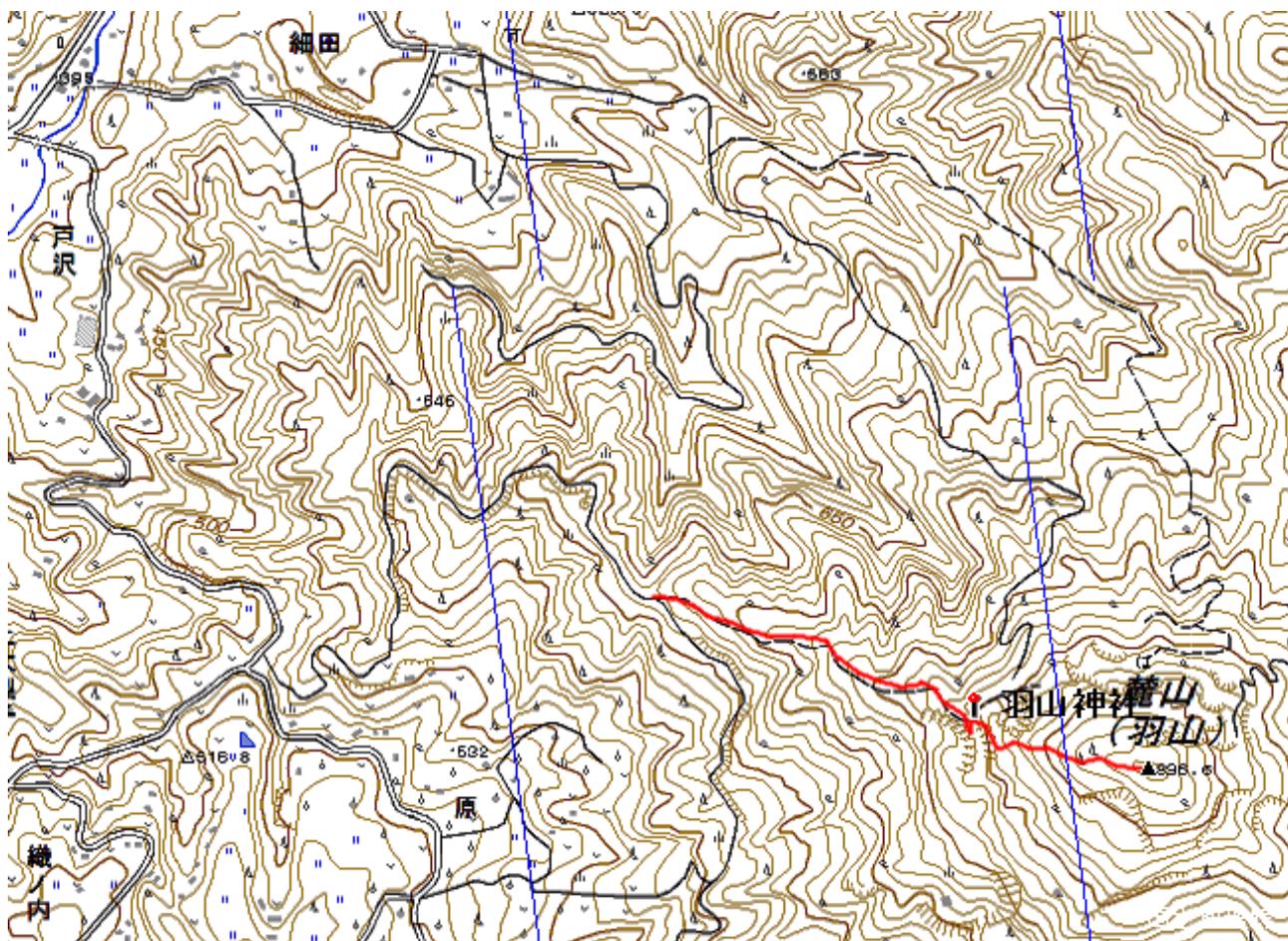


山行報告 東和麓山 896.6m、葛尾日山 1057m

2019年6月13日 秋葉、下山田、芳賀、他1名

日山は富士山に見える北限の山として有名だったが、その座を麓山に譲り、現在は花塚山が富士山に見える北限の山です。

麓山 原発事故前までは麓山はパラグライダーの山であったが、今は登る人も少ない静かな山です。登山口は北口、南口、牧場口とあるが、今回は道の駅「東和から」の所から459号線に入り南登山口から登る。林道を20分歩き、林道御終点の羽山神社から40分で頂上。那須、安達太良、吾妻、霊山から大滝根山などの阿武隈の山などの展望がすこぶる良い。

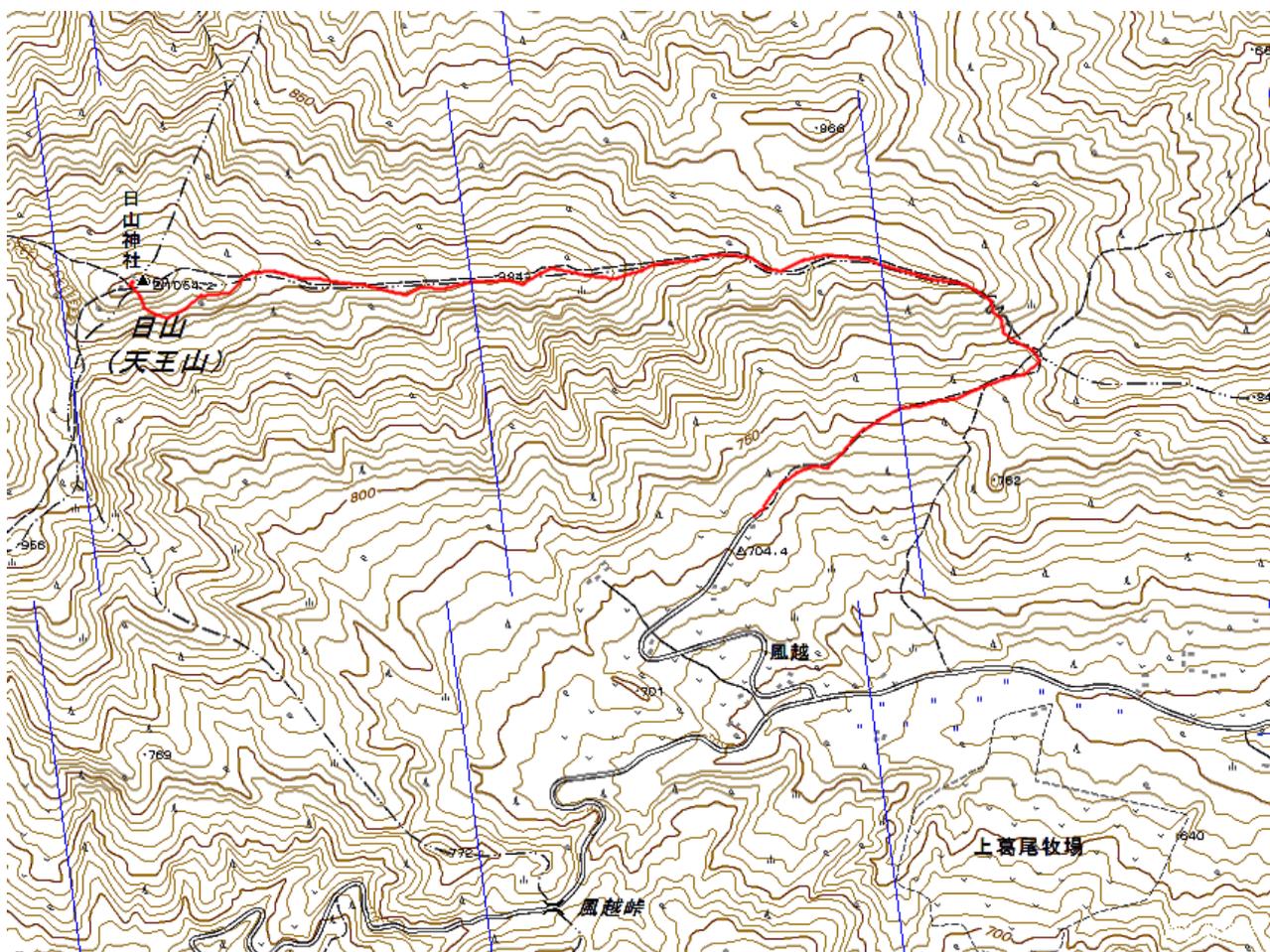


日山（天王山） 日山は頂上に岩代町、浪江町、葛尾村の三つ神社があることで有名。原発事故で岩代側から以外は入山禁止であったが、今年葛尾村からの登山道が解禁されたのでの早速出かけた。登山口に立派な駐車場がある。標高差は350m、距離3.4km。雑木林の気持ちの良い緩やかな登山道に行く。所々で浪江側を通るが立ち入り禁止でう回路が切っている。頂上で0.2、高いところで0.3、低いところで0.1 μ Svでした。石井食堂で遅い昼食を取り帰路につく。

登り 駐車場 11:00 → 浪江口分岐 11:15 → 頂上 12:05

下り 頂上 12:30 → 駐車場 13:20

（文責：秋葉）



山行報告 蟹山 868.3m

2019年6月27日

秋葉、尾形、吉田睦、山本、他2名

蟹山は葛尾村に位置します。原発事故以来立ち入り禁止になっていましたが2018年6月に葛尾村全体が解除になった。昨年行った時にはまだ立ち入り禁止だったので登山口を確かめるのみにした。

近くには「もりもりランド」があるのでそこを目印に行くと分かりやすい。

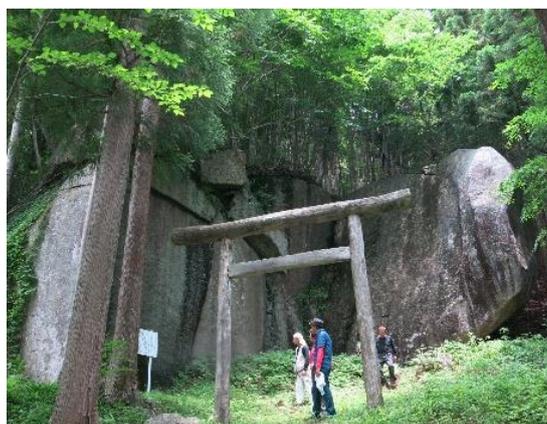
蟹山は下からの登山口もあるが、8年間入っていないのでおそらく藪になっていると思い、様子見に上部のみ歩いてみた。

「もりもりランド」の上の峠(約750m)に蟹山登山口の標識が立っている。緩やかな雑木林の中を進むとやがて黄金山神社に着く。ここまでは整備された路だが、ここからは藪になるが10分弱で三等三角点の頂上に着く。残念ながら頂上は林に囲まれて展望は得られない。



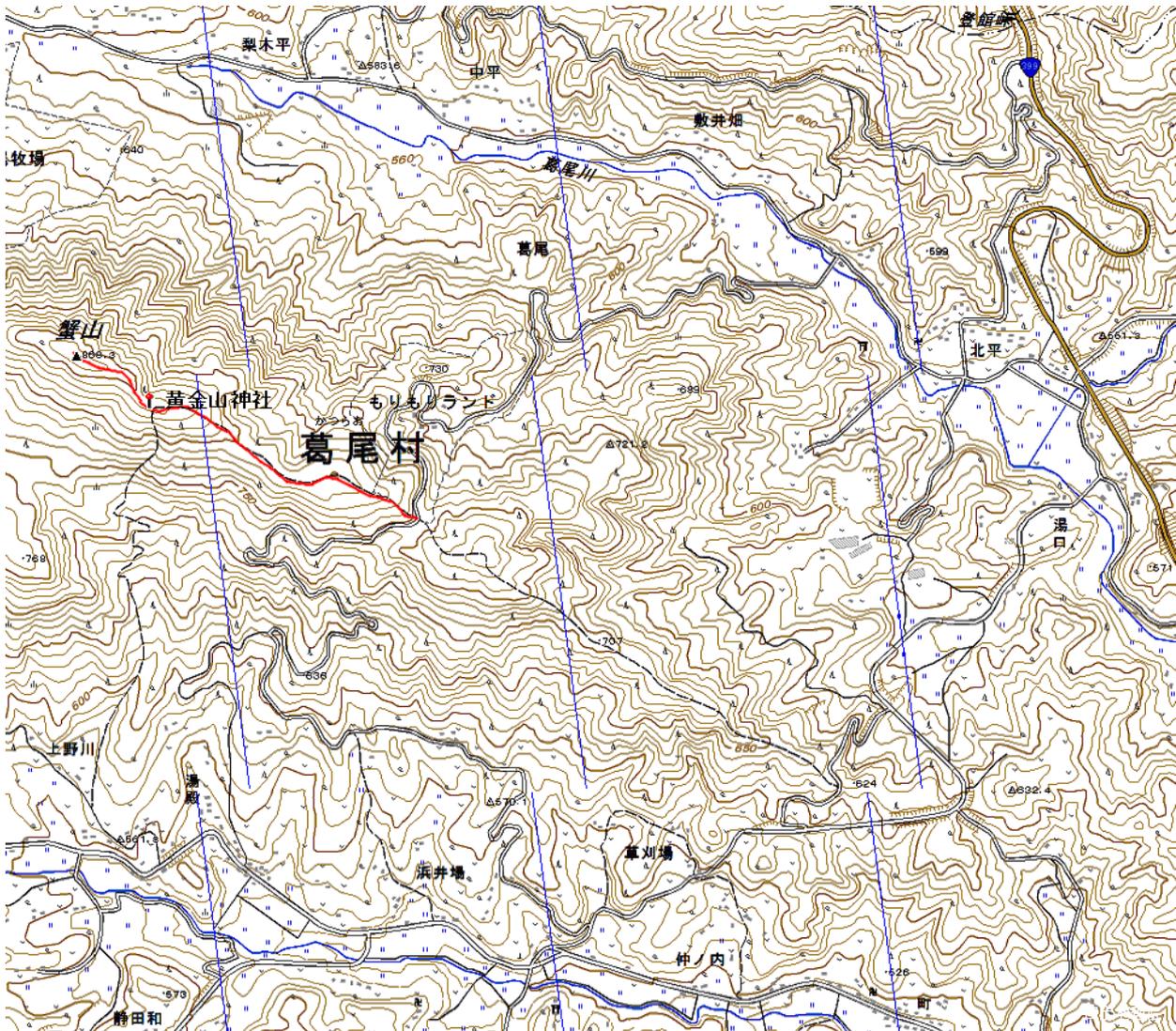
黄金山神社まで戻りデザートタイムとする。裏の岩の上からは五十人山、常葉鎌倉岳、竜子山などを木々の間から望むことができる。

標高差約120m、距離約1kmで、約1時間で往復できてしまうので少々物足りないが、適度に成長した雑木林の中を歩く気持ちの良い路でした。



時間があるので「葛尾大尽く屋敷跡」「磨崖仏」を見学」する。どちらも一見の価値がある。
今や葛尾の名所の一つになっている「石井食堂」でかつ丼、冷やし中華、チャーハン等を食べる。どれも美味しく、食べきれない量だが、お値段は普通の食堂並み、体験してください。

(文責：秋葉)



御前ヶ遊窟（井戸小屋山） 902m

2019（令和元）年 6月1日（土） 秋葉・下山田・渡邊（敏）・馬場・西・長谷川

平安時代中期ごろ、平維茂（たいらのこれもち）の奥方が住んでいた（らしい）「御前ヶ遊窟（ござんがゆうくつ）」。

「ある日の夜、維茂の死期が近くなり、明け方までに来なければ死に目に間に合わないと奥方に知らせが届く。奥方は急いで夫の元へ駆け付けようとするが、夜明けの鶏の声を聞き、夫の死を悟った奥方は阿賀野川へ身を投げてしまう。だが、聞こえてきた鶏の声は天の邪鬼（あまのじゃく）がいたずらで鳴いた声だった・・・」という悲しい話も伝えられている。

場所は、新潟県阿賀野町の「井戸小屋山（いどこややま）=902m」の東側。そこにそびえる岩塔のひとつに「御前ヶ遊窟」がある。今回のルートは、シジミ沢のスラブから遊窟に登り、尾根沿いを歩いて井戸小屋山経由で下山するルートの山行となった（ルート図参照）。

午前5時ごろ集合場所の水石山駐車場を出発。

いわきを出るときはどんよりとした雲が残っていたが、津川 IC を降りて登山口付近の駐車場へ到着するころには晴天の登山日和に。登山口近くの駐車場にはすでに車が2～3台止まっていた。

ヘルメット、ハーネス、スリング、カラビナなど一式の身支度を整えいざ出発。気持ちの良い新緑の林道をしばらく歩くと「登山者名簿」と書かれたボックスが設置された登山口が見えてくる。ボックスの脇には「御前ヶ遊窟は急峻（きゅうしゅん）な岩場などが連続する上級者向けの山です・・・」との注意書きが目に入ったが、見なかったことにして前に進む。



前日の雨の影響も若干あったが、途中沢を何度か渡り、所々にでてくる岩を乗り越えながら登山道を順調に進んでいく（途中足場が崩れて約3メートル滑り落ちてしまったメンバーも）。

また、ルート上ではないが、ところどころ日陰には解け残った雪もみられた。

登山道には目印となるピンク色のリボンが結ばれているが、肝心なところに来るとなかったり、みつ



けにくいところにあたりで注意が必要だった。

シジミ沢に入る分岐の滝まで来たところで、滝の上流からシジミ沢に入るのか、手前の下流で入るのかルート探しを兼ねて沢で小休止（どちらにも踏み跡があり間違いやすいとのこと）。

下山田さんは履いてきた靴の具合が悪くなく、この後の本格的な岩登りになってからでは戻れなくなるという自身の判断で引き返すこととなり、ここからは5人で登ることに。

滝の手前から沢を渡り、シジミ沢に入るとスラブの先にそびえる岩塔が見えてくる。ここから本格的に岩壁にへばりつく。

クサリとトラロープを頼りにできるだけ「手がかり」「足がかり」のよい場所を探り、それがないところは近くに自生する枝や草をつかみ、両手両足の感覚に集中しながら岩壁をよじ登っていく。

「ここで落ちたら、ただではすまない」という緊張感の連続と、つま先が滑り岩にかかりにくい長靴を履いていた長谷川は、途中の棚状になった部分で馬場さんのセラバンドと、渡邊さんに水を補給していただき助けられた（ありがとうございました）。





さらに登りが続き、安定した場所に出たところで、今登ってきた斜面を見下ろしながら絶景をおかずに昼食。

昼食後、さらに続く急峻な岩壁とやぶ道の連続を登っていくと、馬場さんと長谷川はピンク色のリボンを目印に遊窟直前の分岐で右手の尾根にでる巻道に入ってしまう、そのまましばらく登ってしまうルートミス。

先行していた西さんや秋葉さんの呼び声自分たちより低いところから聞こえてきて、「いつの間に追い越したんだろう？」などと驚きながら引き返す（しかも、ちょっとした難所を超えたところからの戻りなので大変だった）。

分岐点の岩肌に大きくペンキで目印が書いてあることに後で気づいたが、ふたりとも急登で手元や足元ばかりに注意が行き過ぎて気づかなかった。

目印左手の岩をよじ登ると、目の前に白土の広い場所が広がり、そこが今回の目的地である「御前ヶ遊窟」だった。

ようやくたどり着いたその場所には、腰をおろして休むのにちょうど良い岩がいくつか並び、奥には誰が運んできたのか石仏やケルンが積み上げられ、はるか下で流れる沢水の音とともにさわやかな風が吹いてくる。

「水くみも命がけだし、食料なんてどこにもないし、こんなところに（言い伝えのように）絶対住めないよ」などと話をしながらしばし休憩。





休憩後は、井戸小屋山の山頂を経由する尾根沿いの登山道から下るルートで下山を開始。

遊窟の左端から岩壁を直登すれば尾根道に早く出られるということで、ここで初めてロープを出して登ることになり、ひょいひょいと秋葉さんがトップで登り、手際よくロープをセットしてくれた。

ここまではクサリ、トラロープ、やぶの枝や草などをつかみ、なにもないところでは必死に岩のくぼみに手がかり、足がかりを探しながらへばりつく連続だったので、

ロープがある安心感にはかりしれない。

ブルージックをロープに巻きつけ、ハーネスのカラビナにセットして順番に登り始める（今回は7ミリのブルージックはかかりが悪く滑ってしまい使えなかった。6ミリのブルージックが良好だった）。

自分の番になり、ブルージックの結び目を押し上げながら岩壁を登る。「やっとこれで岩壁にへばりつくのも終わりだ。尾根道に出られる」と、ブルージックを外しながら思ったのもつかの間、最後の最後で

またもや落ちたらただではすまない高さの岩壁を4~5メートルほどトラバースが待ち受ける。

岩にへばりつき、樹木の枝と草をつかみながら「折れるなよ」「抜けるなよ」と、なんとか足の置き場を探りながら渡りきり、やせ尾根の登山道に出た。

やせ尾根もそれなりに高度感もあり怖いはずだが、それまでに岩壁にへばりついてきた怖さからくらべるとはるかに楽に感じられ、なぜかほっとしながらも、「こういうときの油断が危ない」と、「ふんどし」ならぬ、「ハーネス」を引き締め、山頂を目指して歩いていく。

井戸小屋山山頂(902m)を経由して一気に下りに転じる。下りのルートは落ち葉がかなり堆積し滑りやすく、皆転びそうになりながら下りていく。

落ち葉と格闘しながら降りていくことしばし。林道に出会うと「下りてきた」とホッとしながら砂利道を歩く。

しばらく歩くと舗装された車道が現れ、まもなく出発点の駐車場が見えてくるだろうと思っていたが、約2キロメートル下り歩き、やっとスタート地点の駐車場が見えてきた。

見なかったことにしていた登山道入り口の「上級者向けの山です」の言葉通り、ベテランの先輩に引率していただかないと味わえない、スリル満点(下手すりゃ命がけ)の山行となり、山の醍醐味を満喫した1日となった。



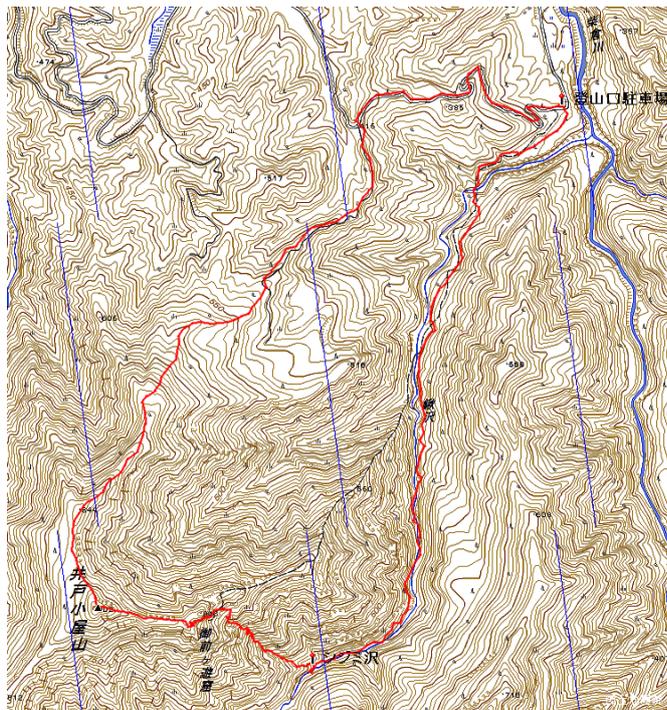
同行させていただきありがとうございました。
貴重な山行を体験させていただきました。

最後に、ここを登るときは（安い）長靴はやめたほうが良いと思います。

今回長靴で行きましたが、足がかりを探りながら岩を登る際に滑ってつま先がかからず苦労しました。

また、途中で沢を渡る場面が何度かありますが、沢靴を履かれていた紅一点の西さんも下りの落ち葉ではかなり足を取られ苦戦されていました。

普通の登山靴で入り、沢は靴を脱ぐなどしながら登るのが良いのかもしれません。



コースタイム

登山口駐車場（8：05）→登山道分岐（9：00）→シジミ沢分岐（10：20～35）→御前ヶ遊窟13：00～14：20→井戸小屋山頂（15：10～20）→登山口駐車場（17：05）

（文責：長谷川）